

会誌

創刊号

国立沼津工業高等専門学校同窓会

卷頭言

人からのよい

優秀な技術者となつて

世の期待にこたえよ

故井形厚臣

目次

巻頭言	1
会誌発行に寄せて	5
第一回生へ	5
同窓会と学校	6
同窓会のあり方	7
同窓会の皆様へ	8
思いつくままに	9
同窓会に出席して	9
会員の近況	10
同窓会だより	15
沼津工業高等専門学校同窓会会則	16
会費徴集について	18

会誌発行に寄せて

会長 木ノ内倫弘

卒業以来の念願であった会誌がいよいよ発行になった事は誠に喜びに耐えません。これもみな会員の皆様の御協力の賜と役員一同深く感謝致しております。振り返って見ると同窓会は全くゼロからの出発で何から何まで自分達でやらなければなりません。卒業、入社とまたたく間に三カ月は過ぎ、六月末にようやく第一回の役員会を開催、役員の方合せと会務遂行の基本方針を決定致しました。その後校長先生をはじめ母校の全面的な協力の下に数回にわたる役員会、編集会議を経て先の仮名簿と今回の会誌発行までこぎつけ、現在に至っております。ここで一つ考えたいのは同窓会の主体はいつまでもなく我々会員の一人一人であるということです。他人のためではない、自分達の同窓会だということを各人がもう一度胸に刻んで、今後の同窓会活動に対してより一層の御理解と御協力をお願い致します。最後に同窓会発足に関して絶大なる御協力を下さいました母校の教職員の皆様方に厚く御礼申し上げます。



第一回生へ

学校長 土井静雄

第一回生の皆さんにはお元気で業務にお精励のことと思います。社会に第一歩をふみ出した当時は戸迷うことが多く、日常生活にも余暇が少なかつたでしょうが、最近はかなりお慣れのことと思います。学校は創設時代から内部充実の時代を迎え、教職員の方々は諸君に続く、よい学生を育てるよう日々精励されています。明春卒業予定者の就職は、高専に対する社会の認識が昨年に較べると一層深まり好調でした。諸君の実力及び人柄が高く評価されたためかと思えます。また夏の体育大会では、公私立の高専も参加した全国大会で陸上部が優勝し、沼津高専の意気盛んなところを全国の高専に誇示しました。

同窓会が設立されその活動の第一歩をふみ出しました。十分な成果をあげられることを切望します。第一回生には開拓者精神に富む幅広い性格の人が多かったから、同窓会のリーダーにふさわしいと平素から心強く思っていました。学生時代の友達仲間、何年経っても親密さ心安さ変わらないものであり、お互いの連絡は心の安らぎ励ましになるものと思えます。

かつて産業界が好況で学卒者が引張りだこのとき、来校された或会社の人事部長に、私の考え希望を話したことがある。教育は学校だけのものではないから、御社に入社した者を引継いでよく教育し立派

に育てて頂き度い。当人に実力がつきよい待遇になれば、自然に同窓会にもよく出席し、母校にも度々来て呉れるものである。そうなれば、優れた素質の学生が多数入社を希望するようになると思うと話した。人事部長も同感されてそうあり度いとのことであった。

本校は諸君にとって母校であるから、よい時のみでなく、困ったこと、迷うことあるときも、是非来校されて母校の雰囲気にとり、相談されることを望みます。

同窓会と学校

特別会員 組 岡 辰 三

卒業生が学校を出ると同時に、社会に巣立っていく殆んどどの学校には、組織的な同窓会があって、卒業後も卒業生同士が相互の連絡をとり、卒業年次や勤務箇所は異なっても、お互いに親近感を持ち、いわゆる同窓意識の強いのが普通である。

同窓会はもとも卒業生の組織する団体であり、歴史の古い学校では、卒業生は数も多く、社会的地位を持ち、経済力もあって、卒業生だけで運営している。しかしながら新しい教育制度として発足し、漸く第一回生が出たばかりの現時点における高専では、卒業生自体はどこの会社にはいっても新米社員であり、到底自力で同窓会の運営に当る余力は余力はない。従ってその同窓会に対しては、組織することから、当面の運営まで、学校が協力して面倒を見、ある時期までは成長を助成する必要があることは明かであって、これはあたかも生れた

ばかりの赤子には、全く社会活動はできず、一人前になるまで、親の庇護の下に成長していくのと同様である。

そのために同窓会を学校の組織の一部と同様に考えて、校長自ら同窓会長となっているいくつかの高専があり、また長野高専のように、今年三月第一回の卒業生を出す学校が、既に昨年の六月、同窓会の組織されている各高専の実情を調査し、卒業生の出る前に、予め準備を整えている学校もあるのは、このためである。

また学校の立場から考えれば、学生とは卒業式を境に一応縁はきれるようなものであるが、卒業生がどこへ行ってしまったか分らないようでは、将来とも困るので、卒業生の勤務先と住所は、常に把握している必要がある。しかしこれは学校自体ではできないことであって、この機能はどの学校でも同窓会が行っている。その面からも同窓会が自立して運営できるようにするまでは、母校がその運営に協力し、育成をはからなければならぬのである。

元来生産加工技術だけが技術ではない。どんな団体でも組織をつくり、それを運営していくには、そのための技術がある。即ち趣意書をつくり、会則を定め、役員を選出し、会費を集め、毎年の行事を計画してこれを実行に移し、これで始めて、団体としての活動ができるのである。同窓会もまたその例外ではない。

ところがどんな団体でも、ただ会則をつくり、組織ができただけで、活動ができるものではない。いかにすぐれた名優でも、俳優だけで、演劇はできない。まづシナリオライター、演出家によるお膳立てが必要であり、さらに舞台装置、小道具の準備等、いわゆる裏方の仕事もなくしてはならない。同窓会の活動ができるのも、まづ手腕と熱意のあるリーダーの推進力によるものであって、会長はじめ役員等関係

者一同の陰での計画推進があって、始めて進行する。さらに運営に伴う事務処理能力と、活動を裏付けるための経済力が必要不可欠の条件となる。この三者が揃って始めて同窓会もうまく運営できるのである

ここで会員一人一人にも協力が要請されるのであるが、会員の協力とは何かといえば、年々五〇〇円の会費を取めて、会の経済力を支えることがまづ一つ、次に今後転勤、転職もあり、結婚もして、住所も度々変るのが普通であるが、その際には必ず母校内の同窓会あてに連絡することである。この二つを怠ると、同窓会の活動は低調となり、会誌等も配布は不能となって、連絡機能は弱まり、会員名簿も空白もしくは誤ったままとなり、所在と生死不明の会員が増加することとなる。卒業生諸君と学校との法的な関係は卒業と同時に切れるが、同窓会との関係は一生切れないことを銘記してもらいたい。

諸君等の同窓会の発足に当って世話をした関係から一言所見を述べた次第である。

同窓会のあり方

岸 岡 英 太 郎

正月の同窓会に出席して久方振りに諸君の元気なお顔を拝見し、まことに心強く感じました。これから続々卒業生を出して、逐年同窓会員が増えて行くことは嬉しいことにはちがいませんが、もうそんなると、今年のように同窓会即クラス会といった雰囲気ではなく

り、年次のちがった者同士のつながりが果してまとまりを見せるかどうか疑問に思われます。ここで、いわゆる同窓会なるものについて日頃感じていることを書いてみましょう。

一般に、同期生とか、同級生という関係は何といっても親密度が最も高いもので、卒業後、死ぬまで切れることがありません。いわば兄弟のなかのようなものです。しかし、年次のちがう場合は、在学中同じクラブの先輩、後輩であったとか特別な関係以外、ほとんどつき合いらしいものはなく、お互いの関係は濃くないのです。それゆえ、年一回でも集まるとなれば、まず親しい者だけの会、クラス会ということになっても、さほどに親しくない人達が大勢はいつて来る同窓会というものにはあまり気が進まなくなるものです。卒業後一二年ぐらいはともかく、それからは将来の社会的地歩の建設期にはいるため多忙になって、クラス会以上の事には加わっている暇もなくなるのが通例です。

ところが、丁度海外に長くいた人が母国に帰りたくなるような心理で、中年以降すこし落着いて閑ができる、母校を思い出し、旧友と集まりたいような気持が湧いて来るものらしい。一種の老化現象の兆候といえは語弊があるかも知れません。そういう会合に行くや停年間近になったぐらいの頭髪の薄くなったり白になった連中が子供のようにはしゃいで、遠い青春を一晚だけでも呼びもどして楽しんでといった感じが致します。その年輩になると、自分の息子と同じ年頃の後輩が勉強している母校の近況に関心を持ったり、なにか力添えをしたいとかいう気持になるもので、つまり同窓会らしいムードができて来るものです。こういうわけで、若い活動的な年輩の人達はクラスメートごとに集まることがあってもあまり同窓会というものには関心

がなく、中年以降に同窓会の気分が盛り上がりつつ来る傾向を痛感致します。しかし、クラス単位に心のつながりがあれば、それがオール沼津高専同窓会の下部組織と考えられ、その内に各中心地ごとに地区の支部ができて、そこで年輩のちがう人達が顔を合わせるといふことになれば、横糸、たて糸の織りなす同窓会組織の母体ははつきりした形でなくてもできていくと思えます。

したがって、年一度の総会など計画してなかなか大多数の人には出席できそうもありませんから、むしろ各地域の支部単位に組織化をはかって、その綜合体としての同窓会という性格を持つようになるものと予想致します。

同窓会の皆様へ

先づ御年賀申し上げます

明けまして新年おめでとう ございます

昭和四十三年 元旦

沼津市大岡三六〇〇

木 戸 義 一

静かなる美しき夢 描きつゝ、

日々をいそしみ 仰ぐ富士かな

こんな気持ちで新年を迎えました。

序に家族の状況も御知らせします

木 戸 マ サ

栄養の補給、保健の管理、

家庭のしあわせを祈りつゝ専ら主婦業

木 戸 節 子

在東京。アメリカン・スクール・イン・ジャパンに勤務しています。

木 戸 裕

沼津東高校三年生、いよ／＼進学の年です。

木 戸 実

目下受験勉強中

沼津高専、機械工学科一年生。エンジニヤの卵として、体力づくりにも努めています。現在清峰寮一〇三室。

校庭には、みなさんの卒業記念の月桂樹がすく／＼と伸びています。

植え樹てし 月桂樹 みどり いやまして

年の始めの 君を寿ぐ

大岡の丘から、みなさんの発展、隆盛を心から祈っております。

みなさんは、学窓を巣立って、社会に第一歩をふみ出して、僅かの間にも、いろ／＼の数々の経験をされたことと思います。

数々の経験から、反省すべきを謙虚に反省し、失敗は成功への礎石として生かす様、いつも明るく、前向きな姿勢で、自分の進むべき道を見通して、将来につながる毎日を大切に、一時の間違いから一生を

台なしにするようなことのない様に念じています。

常に謙虚、そして自分を失わない人は立派だと思います。

折々には、みなさんの職場を訪ねて、御活躍ぶりを拜見したいと楽しみにしています。

呉々も御健康と御発展を祈ります。

(四三、一、一五)

思いつくままに

深 尾 保

ついこの間、中学時代の同級会が開かれた。今度は十人程しか集らなかつた。この前は、N市の検事正だったT・N君の歓迎会を兼ねた為か、三十人以上で珍らしく盛会だったのに比べて淋しかった。

S銀行の常務だったH・N君、海軍少将まで昇進したK君、級長だった温厚のS君など、高血圧とか胃の不調とかで欠席する等常連の多くが欠席してしまっている。昨年建設大臣表彰を受けたT君とT・N君とが世話役をやっていたが、S大教授のI君と僕との何れも青白い、高血圧症には程遠い貧相な風体をひやかし半分に、同級会の最後は君達二人で看取ってもらうんだとからかわれてしまった。六十を過ぎるとこんな事を考えつく。卒業以来四十年以上上たっている。

僕は甲、乙、丙三組で百五十人程だった。丁度君達の仲間と同じ位だ。同級のよしみは理屈抜きに良いものだ。駆引もなく、妙なせりあひもない。おい、お前の間柄である。仲よくし給え、友達はいいものだ。

同窓会に出席して

柳 瀬 晴 海

一月二日の同窓会にて、諸君の元氣激測とした様子を見て誠に嬉しく思いました。皆立派な若いエンジニヤになり、会社の仕事の話や、日々忙しいこと等、いきいきとして話していたが、どの諸君も会社が自分の双肩にかかっているという顔付で張切っていて誠にたのもしく思った次第です。私は席上でも述べましたが、第一期生諸君にお願したいのは「東海にそびえて名あり……」のつながりを持つ大先輩としていろいろな面で今後社会にでてゆく後輩をよろしく。

学校へもよく来て下さい。

では元氣でがんばれ!

偉大なる時

八千代工業研究所株式会社

湯山孝雄

○月○日 日が西に沈むとともに、その一日も終る。
 ○月○日 偉大なる朝日とともに、その一日が始まる。
 ○月○日 偉大なる太陽とともに、その偉大なる歴史も展開し、昨日は過去に、今日は現在に、明日は未来にとその歴史も生き続ける……音無しのかまえて……この大歴史の中に己の一つの姿をみつけた。繰り返しくやってくるこの太陽の中に……

生きていたる事の喜び、働く事の喜び、
 生きていたる事の悲しみ、働く事の……
 それを抱きしめながら常に己というものを意識して来た。

そして如何にしたらじょうずに、そして無中で死に得るか……如何にしたらおもしろい死に得るか……如何にしたら……それが自分の生涯の課題である。この大歴史に挑戦し生きつづける。小我なる俺様の……

全く関係なく、文化系の人も汗と油にまみれて実習をしたわけです。五月の実習が終ると、再び全員日立市へ集まり配属工場の発表を受けました。配属に当ってはあらかじめ、希望調査が行なわれましたが全員が希望通りという事は不可能であり従って我々関心の最大のものであったとも言えます。幸か不幸か私は第一希望の戸塚工場に配属され六月一日赴任致しました。ここでまた今日まで四ヶ月、実習しました。最初が製造部原料課でプリント基板のホットレジストの耐メッキ性検討というテーマで一ヶ月、ついで生産技術でやはりプリント基板のホットレジストをテーマに一ヶ月、八月は検査部で信頼性管理をテーマに、九月は技術計算係でHIPACIOIを相手に実習しました。戸塚工場ではこのようにすべてテーマ実習でもちろん学校で学んだことも役に立ちましたが、殆んど新しい問題に取り組んだ形で勉強になりました。ただ実習中はテーマそのものよりもむしろ人間関係とか会社のしくみという面の勉強が主だったと思います。特に同期の人達との親睦を深めることは今後のためにも欠くべからざることで年令の違いなど越えて付き合いました。こうして追ってみると六ヶ月という非常に長い実習期間でしたが、あっという間に過ぎてしまったような気がします。これまでは失敗しても実習生ということで気楽な気分でしたが、いよいよ明日からは配属先の部課で仕事をすることになります。厳しい生活が待ち受けているようで一抹の不安も感じます。とにかく一生懸命頑張りたいと思います。最後に配属が決ってからの思い半年もの間ごぶさたしてしまったことを深くお詫び申し上げます。



（二十一才、独身、ひとりもの。好きなもの……女娘、嫌いなもの……コンニャク）

近況

日立製作所 戸塚工場 交換方式設計部

大日方一郎

同窓会からの連絡をいただいたとき、もう半年も経ったのかと驚いたくらいでした。まだ学生気分が抜けないような状態です。半年間ずっと実習でしたので余計そういう感じが強いかもしれませんが。ふりかえてみますと日立市の小平会館で挙行されたいかにも厳肅で壮厳なる入社式の雰囲気にもまれカチカチに緊張して私の日立生活が始まりました。新入社員（卒高専卒）総員四三八名という人数にまず圧倒してしまいました。全員が（集）寮に入り一ヶ月間集合教育を受けました。寮は一室八名で高専卒四三名は各室に一名ずつばらまかれました。当初は年上の人がばかりで勝手が違い戸惑いましたがすぐに慣れました。この人たちは配属で互に別れ別れになりましたが再会を誓い合いました。とにかく楽しい寮生活でした。四月は全員揃って会社幹部の講話とか事業部の紹介および茨城地区、京浜地区の工場見学などの日程に従いました。五月になると茨城地区、京浜地区の各工場で数十名ずつばらまかれてやはり一ヶ月間、現場の体験実習を行いました。私は日立工場の制御盤製作課で実習しました。これは出身学科などには

この半年

東京芝浦電気株式会社

佐々木浩

会社に入社し、いわゆる社会人といわれるものになってからすでに半年が経過した。この半年間は全く五里霧中で、一瞬にしてたまたまうな気がする。今やっと会社生活に慣れて落ち着きかけたところである。

この半年は自分自身にも、また周辺にも最も変化の大きかった期間であった。会社勤め、その中の仕事、またほくにとつて初めの寮生活などという不慣れな事に多くぶつかったのでよけいにそういった感じを持つのかも知れないが……

入社して最も痛切に感じ、また、残念という感じがしたのは、学校で学んだ多くの専門的な知識が生かせないという事であった。入社前に、会社に入ったら、こういう方面で、こういった事をまずやってみようなどと考えていたその考えは全く甘い、自分の一人よがりである事を思い知らされた。現在与えられている仕事も、専門とはほとんど関係のない事である。

次に感じた事は、会社というところの厳しさである。何事も利潤第一、採算第一である。企業としては全く当り前の事であるが、初めは、思いがけない所でそれらのことがひっかかってきて、とまどった事があった。

意外であった事の一つは実にたやすく金が入った事である。入社したばかり何もできなく、何もしないのに一定の給与がもらえたという事は少し申し訳ないような気がした。しかし、これとて、会社の投資であると考えるとあまりのんびりもしてられない気にされる。

現在は能力第一主義の時代であると言われる。東芝においても例外ではなく、それに関する話は常に耳に入ってくる。これからは広く浅くでは駄目で、狭く、深く、つまりその道におけるエキスパート、いわゆるスペシャリストにならなければ生きてゆけないとも言われている。

この半年間の多くの経験をもとにして、これから本当の自分のための勉強を続けていかなければならない。現在の仕事はほくにとつて大いに不満である。しかし、不満ばかりでは進歩はない。これをのりこえていき、さらに努力することを忘れないつもりである。

雑感

富士写真フイルム株式会社
産業材料部技術課

村松正敏

入社来約半年、ようやく仕事の内容がわかりかけてきたというところ、毎日楽しく過しています。私の業務はマイクロ写真機械に関する「サービステクニク向上」、「マニュアル作成」、「品質改良実験と解析」といったところでサービスマン教育も含まれており、今はサービ

らの論理である。彼らにとって賛成の部分もあれば、反対の部分もあるという事はゆるされない事ようだ。彼らに属しないためには相当強い意志がないと負けてしまう。このような人種が世の中に、こんなにも多いものかと驚いているのが私の近況である。

何処に

立石電機株式会社中研A D

田中晶一

青春に 夢を抱きて
踏み初めし この道なれど
振り返る 道は短く
青春の 夢は何処に

初恋に 人を恋して
捧たる 誠心なれど
若さゆえ つかめ得ずして
初恋の 人は何処に

遠き地に 明日を求めて
離れたる ふるさとなれど
昨日が 今日がむなしく

スマン教育が主です。営業本部直系の技術課なので「営業」という二オイがします。従ってデスクワークが大部分とも言えます。課内が大企業に似ず家族的なので本場にうれしく思っています。毎日残業が二時間もありません。先日は二週間にわたり、福岡、広島、大阪方面へ出張してまいりました。一人ですし改修作業が目的ですのですい分と疲れました。帰ってくるなり別の仕事が始まっていますから、そこそ緊張の連続と言えますが、日曜日など同じ課の人と箱根へドライブしたり、山岳部で山へ行ったりして適当に気分を安らげている次第です。富士フイルムでの自分の位置も自覚できる毎日会社へ行く事がむしろ楽しくさえ感ずる。というのが現況です。

近況

東京電気
安定器技術課

漆畑豊

入社後、各工場を實習に廻され、六月に三島工場の技術課に配属され、新製品の開発、試作設計に毎日追われている。入社して一番めんどろな事は、人間づき合いです。ある人種と議論を始ると、「君は一〇〇%賛成か、一〇〇%反対なのか、そのどちらかと問う。」彼らは少しでも納得のいかない所があると、「君は反対だ」と決めつける。彼らは「正」か「否」か、二者のうちどちらか、ということが彼

遠き地の 明日は何処に

人生に 生を尋ねて
たどり来し 青春なれど
さまよいて なおさまよいて
人生の 生は何処に

オリーブよ

燃え揺れる 炎の中で
微笑みし 白き八重歯よ
その美しき 優しさに
姉と思えし 君なりき

みづらみは 明けて清らに
なお清き 君が姿よ
その面影を オリーブの
花に例えし 我なりき

オリーブよ 花散るならば
我が夢の その中に散れ
その夢を得し みづらみの
波音小さき 我が想い

オリブよ 花咲き匂え
夏がゆき 君は去るとも
君に香りがあり 想いでは
ああオリブの 残り香よ

(琵琶湖畔キャンプにて)

ヤンマーデイゼル

兵庫県西宮市郷免町四番二号
ヤンマー翠ヶ丘独身寮

木 伏 恭 紀

ヤンマーデイゼル入社後半年経過。どうやら学生気分も抜け去ったようだ。現在はまだ実習生として各工場及関係各会社をまわっている。同期に入社した百名の男子新入社員のうち、五〇名の事務係の者はすでに七月に配属になり、残り五〇名の技術系の者は製造関係と技術関係に大別されたまま十一月まで実習が続く。小生は技術関係にたった。

五〇名の技術系のうち二五名が大学卒、二〇名が高校卒、五名が高専卒である。現在のところ大学卒との間に専門知識において劣等を感じた事は一度もない。むしろ高専の方が幅の広い教育であろう。一番身にしみて感ずるのはドイツ語の知識欠乏である。仕事上、MTZなどにふれる機会が多く、又特に技術関係の仕事となると、ドイツ各社の資料調査は必ずやらなくてはならない。ドイツへ出張する機会もある

会社から帰ると皆部屋に閉じ込めて勉強ばかりしている。しかたがないからこつちも部屋に入って本など読んでいる。将来への見通しは相当の努力をしないかぎりまず真暗であろう。苦しいが自分なりのペースで行きたいと思っている。沼津に出て来たらせひ奇つてくれ。飲むことならどこまでもつきあうから。

同窓会だより

○ 去る十一月二十二日、母校の運営委員会において私達同窓会が正式に認められ、事務所を校内に置くことになりました。今後は同窓会関係の問合せ等は全て「沼津高専内沼津高専同窓会」宛お願い致します。尚問合せ等は必ず返信用切手を同封して下さい。

○ 昨年の九月から十二月、又今年に入ってからも会誌発行と懇談会開催の為、役員は殆ど日曜を返上、ぶつぶついいながらもがんばってやっています。会員の皆様の一層の御協力をお願い致します。

○ 第一期同窓生の懇談会が正月の二日、静岡にて開催された。同窓生四〇名、特別会員七名、総勢四七名という盛況に幹事一同、テンヤワンヤの大騒ぎでした。卒業以来約九カ月ぶりの再会に皆時間の経つのも忘れて大いに飲み、語り、旧交を温め合った。今後共こういう機会の多々あることを願うものである。

るだろう。こんなにもドイツ語が必要であったとは。

このところ日曜日は釣に出かけている。専ら海での投げ釣りである。騒がしい都会を離れ、波の音を聴きながら一日中釣をする。もう大阪も京都も神戸も少しながらわかってきたし、ガメツイ関西の女の子とデートしてお金を減らすより、一人で魚と戯れる方が、おもしろい事がわかった。寮にはテニスコートもあるのであまり退屈することはない。現在は、どこに配属になるかが一番興味がある。

四畳半に一人

東芝機械株式会社
第一技術部第一設計課

木 ノ 内 倫 弘

七時十五分、目覚し時計にたたき起され、大急ぎで支度をして出掛ける。寮が会社のすぐ近くなので作業服に安全靴というイサマシイかつこうである。一秒でも早くタイムレコーダーを押し、七時四十五分過ぎたことはない。金三十円也の辛うじて生命を保つだけの朝食を食う。しかる後ラジオ体操を行ない。いよいよ始業、ドラフターの前でしばしば黙考の後仕事にかかる。内容は主にロール旋盤とホブ盤の設計(?)である。寮は四畳半に一人、初任給は二万四千円、同期は大学生が八人、貯金はゼロ、給料日前一週間は会社の食堂の飯だけしか食えない。第一、第三土曜が休みなのでよく山に行く。同期の大学生達は石部金吉氏に輪をかけたような人物ばかりで全然面白くない。

○ 名前募集。本同窓会誌の名前をつけたいと思います。つきましては会員の皆様の一つ名づけ親になってもらいたいと思います。どんな名前でも結構ですからどしどしお寄せ下さい。



沼津工業高等専門学校同窓会会則

第一章 総 則

第一条 本会は、沼津工業高等専門学校同窓会という。
第二条 本会は、事務所を沼津工業高等専門学校内に置く。

第二章 目的および事業

第三条 本会は、会員相互の連絡親睦と、母校との連絡をはかり、工業技術振興に寄与することを目的とする。
第四条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。
一、会員相互の連絡に関する事。
二、会員名簿の発行に関する事。
三、会誌等の発行に関する事。
四、その他必要な事業。

第三章 会 員

第五条 本会は次の会員を以って組織する。
正会員 沼津工業高等専門学校を卒業した者。ならびに同校に三年以上在籍し理事会の承認を受けた者
特別会員 沼津工業高等専門学校の教職員。ならびに理事会で推せんされた旧教職員。

第四章 役員および職務

第六条 本会に、次の役員を置く。
一、名誉会長 一名 会長の諮問に応ずる。
二、会 長 一名 本会を代表し、会務を総理する。
三、副会長 一名 会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
四、理 事 若干名 理事会を構成し、会務を処理する。
五、監 事 二名 会計を監査する。
六、顧問 若干名 会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

第五章 役員の選出方法および任期

第七条 一、会長および副会長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。
二、理事は卒業年次の各科から二名ずつ選出された者。および会長の委嘱によるもの若干名とする。
三、監事は、理事会の推せんにより会長が委嘱する。
第八条 一、名誉会長には、沼津工業高等専門学校長を推薦する。
二、顧問は特別会員の中から理事会が推せんし、会長が委嘱する。
第九条 一、役員任期は二箇年とする。ただし再任を妨げない。
二、補欠により選任された役員任期は前任者の残任期間とする。

第六章

第十条 本会の会議は次のとおりとする。

一、総 会 会長が召集し、毎年一回開催する。必要に応じ臨時総会を開くことができる。
二、理事会 会長が必要に応じ随時開催する。
第十二条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。
一、事業計画および収支予算に関する事。
二、事業報告および収支決算に関する事。
三、役員選任に関する事。
四、会則の改廃に関する事。
五、その他会務運営に必要な重要事項。

事務所に連絡するものとする。
第十七条 本会則は総会出席人員の三分の二以上の同意により変更することができる。
第十八条 本会則を施行するに必要な細則は理事会の議を経て別に定める。

附 則

一、この会則は昭和四十二年三月二十日から実施する。
二、この改正会則は昭和 年 月 日から施行する。

第七章 会 計

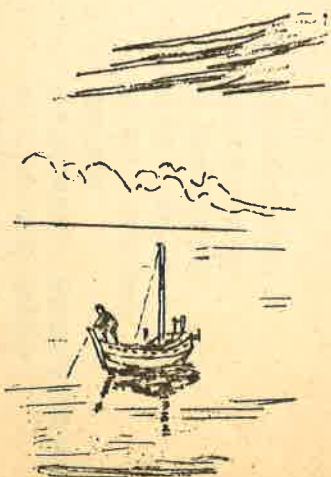
第十二条 本会の経費は、普通会費または、終身会費ならびに寄附金をもってあてる。
第十三条 本会の正会員は普通会費または終身会費を納入するものとする。
普通会費 年額 五〇〇円
終身会費 五〇〇〇円

第八章 支 部

第十五条 本会は必要に応じ、理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

第九章 雑 則

第十六条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等変更の都度、本会の



同窓会費徴収について

昭和四十三年度の会費を次の如く徴収致したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

- 一、金額……五〇〇円
- 二、対象者……第一期卒業生全員二二〇名
- 三、期限……昭和四十三年七月末日
- 四、方法……綴り込みの振替用紙にて各自最寄りの郵便局に払い込んで下さい。
- 五、その他……振替による送金となりますので領収証は省略させていただきますが、もし入用の方はその旨御連絡下さい。

同窓会一年間のあゆみ

- 四二・六・二五……第一回理事会
役員の顔合せ及び活動基本方針の決定
- 七・一五……住所録作成のため会員住所の照会
- 八・二五……仮名簿作成、配布
- 九・二四……第二回理事会
当面の活動方針の確認及び懇親会開催の基本案作成

- 一〇・八……学校長に同窓会への協力を要請、了解を得る
- 一一・二二……第三回理事会
会誌編集の具体案審議
- 一一・一九……第一回懇親会開催の原案作成
- 一一・二二……母校運営委員会にて本同窓会が正式に承認される
- 一一・二六……懇親会準備
- 四三・一・二……第一期卒業生懇親会開催
- 一・二八……第一回会誌編集会議
- 二・一一……第二回会誌編集会議
- 三・七……第三回会誌編集会議
- 三・一〇……第四回会誌編集会議

